

ヤマトタケルノミコト

景行天皇の皇子ヤマトタケルノミコトは、たいへんな英雄です。

天皇の命令を受けて、九州のクマソを征伐し、その帰り道にも、出雲でイズモタケルを敗つて、大和に帰りました。

ミコトが数々の手がらを報告したところ、天皇は、

「東の方にも、わたしに従わないものが多い。お前の方で治めてきてほしい。」と、命令されました。

ミコトは、休むひまもなく、副将のミスキモミタチヒコとおおぜいの家来を連れて出発しました。途中、伊勢神宮で武運をいのつてから、尾張の熱田に着いたミコトは、その土地の豪族の家にとまりました。

ミコトは、その家のミヤズヒメをたいそう気に入りました。しかし、今度の任務はたいへんな戦いで、生きて帰ってくるのができないかもしれません。もし、生きて帰ってこれたら、結婚しようと言束しました。

熱田を出発したミコトの一行は、大高村を通り、木之山村から大府村にやってきました。

ミコトは、
した。



「やれやれ、三河が目前になつたな。ここで、一休みしよう。」

といわれ、衣浦が見えるおかにこしをおろされました。

休んでいる間に、ミコトは、

「天皇は、わたしをにくんでおられるのだろうか。早く死ねばいいとお考えになつて
いるのではないだろうか。西から帰つて、ほつとする間もなく、すぐに東へ討伐に
行けといわれる。こうして、わたしを絶えず危険で困難な仕事に差し向けられるの
は、やつぱり天皇が、わたしが早く死ねばいいと考えているからでしょうか。」

と、ミミタチヒコに、心のうちを話されました。

それに対して、ミミタチヒコは、

「ミコトは、九州で大活躍されたと聞いていますが……。」

とたずねました。ミコトは、

「野を行き、山をこえ、海を渡つて、長い旅を続け、ようやく九州に着いた。すぐに、
クマソの頭のクマソタケルの屋敷へ向かったが、軍勢が二重、三重に取り囲んでい
て、手が出せなかつた。そこで、わたしは、クマソタケルの家の新築祝いの席に、
女の身なりをして入りこんだ。そして、酒盛りをしているところを、ふとこころにし
のばせていた短けんで一突にしたのだ。」

と、クマソ征伐の様子を話されたことにより、少し気を取りなおしたようでした。

やがて、ミコトの一行に気づいた村人たちがやってきて、

「がんばってください。つまらないものですが、どうぞ、めし上がってください。」

といって、酒やら果物^{くだもの}やらを差し出しました。

一休みしたミコトの一行は、再び^{また}勇ましい足どり^{あしどり}で、生路^{いぐじ}村から、衣ヶ浦をこえて、

三河の矢作^{やはき}の里に向かつて、出発していきました。

その後、ミコトは、野火^{のび}の難^{なん}にあつたり、海難にあつたりしながらも、奥州^{おうしゅう}のエゾ

を征伐して、尾張に帰ってきました。ミヤズヒメと再会を喜び合ったものの、再び、

伊吹山^{いぶき}のぞくを討伐に出かけました。伊吹山では、ぞくに討^うたれて深手を負い、大和

に向かう途中^{とちゆう}で命を落としました。

大府村では、ミコトが休けいしたところに、村神社を建てました。

大府地区に伝わる話です。

大府村では、ヤマトタケルノミコトが休まれたと伝えられるところに村神社を建てました。これが、朝日町の熱田神社です。ヤマトタケルノミコトは、古代の伝説上の英雄です。大和王権は、日本の中央部を勢力下に治め、九州や関東までその力をのばしていました。大和王権の命令によって、それらの地方の征服に向かったヤマトタケルノミコトの伝説は、各地に伝えられています。